

1. 土地・気象

●町の沿革

八百津町は、明治22年町村制の公布にともない、従来細目村と称していたのを八百津町に改めた。

これと時を同じくして近隣の和知・野上・牧野・上飯田が合併して和知村に、伊岐津志と錦織が合併し錦津村に、そして潮見・南戸・福地が合併して潮南村となったが、後に福地は一村独立した。また、久田見が上吉田と合併して久田見村となり、町村制下における新しい行政が行われた。

その後、一部で分郷や吸収があったものの、このまま明治、大正の年代を経て昭和の時代となり、第二次世界大戦によるポツダム宣言の受諾、昭和21年新しい憲法が施行され新しい自治体として出発した。

昭和31年1月「町村合併促進法」の施行を機に、和知村を八百津に編入、翌2月に錦津村と新設合併、次いで潮南・久田見・福地村の全域を吸収合併して現在の八百津町となった。ときに面積は129.66Km²、人口は20,219人であった。

《合併の経緯》

